



感謝、感謝です

鎌田 實 (JIM-NET代表)

JIM-NETで、バレンタインの義理チョコという流行を使って募金活動を始めましたが、こんなにたくさんのご支援をいただけるとは思いませんでした。ありがたいことだと思っています。

今回は10万個のチョコレートを用意しました。形は、ご寄付をいただいた方にチョコレートを一缶差し上げるというスタイルです。

今までは六花亭のアーモンドチョコレート5粒でした。昨年までは時々破損が生じて、ご協力をしていただいた方に不愉快な思いをさせてしまいました。今年から缶にしようということになりました。その缶がとても素敵で、とてもかわいらしく、そこにサブリーンの絵が4種類プリントされました。たいへん好評でした。たくさんの人たちがかわいい、かわいいと言ってくれました。どうも風の便りでは、オノヨーコさんまでこの缶が渡ったということです。オノヨーコさんもかわいいと言ったという嬉しい噂が伝わってきました。(あくまでも噂です。真偽のほどはわかりません。)



大都会本館(高田馬場)バレンタインとイラクの子ども達展会場で

サブリーンの絵も素晴らしかったことが一つの大きなホームランになるきっかけになりました。しかし悲しいことに、サブリーンはこのチョコレートの缶のプリントされた状態を見ることができませんでした。10月16日、サブリーンは、「白血病の他のイラクの子どもが助かることができるので私はとても嬉しい」という言葉を残して亡くなってしまいました。サブリーンに、自分で描いたかわいい絵の缶の出来具合を見せてあげたかったと思います。でもサブリーンは、他のイラクの病気の子が治ってほしいと願っていました。

今回たくさんの方のご協力でイラクの病気の子どもたちを救うことができます。チョコレートも六花亭の応援で一缶に3種類もの味のチョコレートが10個入りました。このチョコレートの味もたいへん好評でした。たくさんの方々から「もう少し応援できる」、「もう少しほしい」という声をいただきました。

来年もJIM-NETは、イラクの病気の子どもたちを救うために、全力投球して、哲学のあるかわいらしい、美味しいバレンタインの最高に贅沢なチョコレートを企画して皆さんにお渡ししたいと思っています。お友達や家族や恋人や職場の仲間にあげるバレンタインのチョコレートが、ちょっと哲学的というか、何か誰かに役に立つチョコレートというのは、あげる側ももらう側も少し嬉しくなると思います。多くの人たちに感謝をしています。

2月14日、バレンタインの日に、イラクのドクター・リカ、今信州大学で勉強しているリカ先生をお連れして、イラクのアルビルで、イラクの5つの小児病院の白血病の専門家たちに集ってもらい、イラクの小児がんや白血病の治療のレベルアップをどうしたらできるかの会議を行なってきました。信州大学の小児科の坂下先生他、2名の先生たちの応援もいただきました。

既に11月より、日本から医師が1名、看護師が1名、イラクのアルビルで感染症対策のトレーニングの指導を行なっております。

JIM-NETを応援する方々のお力添えで、JIM-NETは効果的な応援ができるようになりました。今後ともJIM-NETは全力投球で努力していきます。応援、よろしくお願いします。

~~~~~

多くの方々に支えられているチョコ募金。中でも各地のJIM-NETサポーターの独自の活動は、キャンペーンを支える大きな力になっています。その中から、函館と山形のサポーターの取り組みをご紹介します。

## 函館からイラクを思う

サブリーンの訃報を聞いた昨年10月、私はちょうどアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所で亡くなった子どもたちの絵の展覧会を開催していた。いつの時代でも一番の被害者は、罪のない子どもたちだ。なにも変わっていないじゃないか、とそれ以上言葉にならなかった。

私がイラクの子どもたちの絵に出会ったのは2008年の春のこと。『旅するポスター展 in 北海道』の開催中で、色とりどりでかわいいポスターに魅了され、函館でも開催したいと思ったのが始まりだった。

絵を知ってもらうために、子どもたちのことを知ってもらうためにと調べていくうちにイラクの現状と子どもたちに起こっている事を知っていった。こんなことになっているなんて! 私自身がまるで知らなかった。

8月にポスター展を開催、9月には佐藤真紀事務局長が来函し講演会が行われ30名ほどの参加であったが、函館でイラクの現状を知る機会が少ないことから来場者の方は興味深く話を聞き入ってくださった。

イラクのこと、チョコ募金のことをもっと函館でも広めていきたい。そう思って2009年のチョコ募金キャンペーンでは、募金協力店を探し、PRライブの開催もした。地元ミュージシャン"りぼん"がハニーのポスターをみて衝撃を受け『Love peace and chocolate』というオリジナル曲を作ってくれたことで、函館のチョコ募金テーマソングまで出来上がっ



金森赤レンガ倉庫 Bay Galleryの展示

た。これは動画配信You Tubeでもみることがでる。

2009年10月には中東4か国を自転車で走りながら平和を訴える女性による市民活動『Follow The Women』に友人が参加することになった。これは中東地域の女性や子どもの



金森赤レンガ倉庫・金森ホールでのライブ

現状を世界に発信しようと2004年に始まり、年1回開催。これまで約40か国から10～70代の女性延べ約1000人が参加し、1日最長60キロを自転車移動し、難民キャンプや現地住民と交流するというもの。日本からの参加は2年目だが、20名の枠の中、函館から8名もの参加があったのは驚きだった。参加した友人は、得意の絵で中東を紹介する絵本をつくった。現地の子どもたちは笑顔がとってもキラキラしていたと言っていた。

そして今年、チョコ募金を通じてのチャリティフェスティバルを開催、函館で歴史ある金森赤レンガ倉庫にある金森ホールで行った。チョコ募金のテーマソングをつくって下さった『りぼん』をはじめとしたライブの出演者、『Follow The Women』の絵本朗読・写真パネル紹介、飲食等の販売があるイベントで、185名の来場者があった。

関係者も来場者も心から楽しみ、そして楽しむことができる事こそ平和であるということも感じてくれたと思う。

函館からイラクが近い存在となり、世界中が笑顔であふれる未来が一日も早く訪れる事を心から願います。

(むげん空間 小春日和 代表：大野 友莉)

## 山形キャンペーンライブ ～外はボタ雪、内はポカポカ～



2月2日、夜7時過ぎです。山形は昨日までのゆるい寒さとは打って変わって、いきなり的大雪でした。今シーズンでも珍しいほどのものスゴイボタ雪。そんな過酷な天候の中、友人、知人はもちろん、ライブに興味を持った方々が“カフェフォーラム”に足を運んでくださいました。映画館(フォーラム山形)に隣接したカフェで、翌日から始まる『ヒバクシャ ～世界の終わりに～』上映のプレイイベントとしてのライブが始まろうとしています。

女優の渡辺えりさんも寄稿した山形キャンペーンのチラシ 30数年前、高校生のときに一緒にバンドを組んだことのあるくまさん(JIM-NET事務局の熊谷さん)と、昨年、偶然再会。キャンペーンに協力できればと思い、山形サポーターズとして私の音楽仲間に声掛けし、ライブが実現しました。

外は、ドサッドサツという形容がふさわしいほどの雪が、空から限りなく降っておりました。くまさんとの再会からこのライブに至るまでのストーリィ。サポーターズの紹介。映画『ヒバクシャ ～世界の終わりに～』の説明。東京から山形までいらしたグループ現代

の藤井さんのご挨拶…。そしていよいよブルース研究会の演奏の始まり。ボーカルは、見るからにブルースメンの竜さん。ブルースハープでノリノリの次はジャズシンガーの小野さんのしっとりしたブルース。ブルースの酔いがまわったところで一部終了。休憩を挟んで、二部は私のCMソングでスタート。飲酒運転撲滅のためのTVCMの歌を、皆さん笑いながら聴いておりました。それからはスタンダードジャズ。後は小野さんにバトンタッチ。

会場は手拍子で盛り上がり、出演者からも楽しいライブだったとの嬉しいお言葉。お客さんもみんな笑顔でお帰りいただけて何よりでした。私自身、キャンペーンの一環としてのライブは初めてでしたが、心と心をつなぐには音楽という武器は強力だなとあらためて思いました。次回も、これだな!! と心の中で密かにつぶやきました。

(山形サポーターズ：中井由美子)

※ 中井さんは、山形県警の振り込め詐欺防止や飲酒運転撲滅のテレビCMに出演。キャンペーンソングも歌っている山形の有名人。

\*\*\*\*\*

## チョコ募金のお申し込みと一緒に寄せられたメッセージから

🌸 今回、新聞の記事を目にし初めてチョコ募金に参加させていただきました。

最初はオマケみたいなチョコが2、3枚簡単なチラシと一緒に届くだけかなと思っていましたが、届いてまずパッケージの可愛さに感激しました。

子供たちの想いが詰まっている気がしてゆっくり丁寧に開封するとチョコレートが入った缶もとても可愛くて、更にチョコレートも食べやすいサイズのハートチョコがたくさん入っていて感激しました。しかもイラストや缶が4種類もあるなんて本当に感激です。

募金したつもりがこちらの方がたくさんの喜びや嬉しさを分けていただきました。ありがとうございました。(Iさん)

🌸 先日、読売新聞でサブリーンのことを初めて知り、読みながら涙が溢れてきました。私に出来ることはほんの小さなことですが、平和を思う気持ちはとても大きなものと思っています。(Oさん)

🌸 サブリーンの絵はとてもきれいで、本当にウキウキした気分になります。彼女が目にしたたくさんの悲しみ、悲惨な

光景をこんな明るい世界に変えるお仕事をしたかったんだと思います。彼女の身体は無くなっても、その志と、遺した絵が同じ境遇の子供達を救い続ける事でしょう。

子供達にもぜひサブリーンの話をし、てあげようと思います。(Nさん)

🌸 イラクという国のことを、さまざまなメディアや人を介した情報でしか知りえていません。昨年もそうでしたが、イラクの子どもたちが描いた絵を通じて、イラクという国を肌で感じたい! と思っています。「お互いつながりあっているんだ」と感じることはとても大切なことだと思っています。今年の子どもたちの作品をととても楽しみにしています。(Fさん)

🌸 鎌田先生のブログでこの募金を知りました。毎年バレンタインのチョコレートは何にしようかと悩むのですが、今年は、もうこれしかない!! と即決でした。主人や息子にしっかりと意味を伝えて味わってもらいます。(Sさん)

メッセージありがとうございました。



# 三つの絵画展

## ■ イラクの子どもたちの絵画展

会期：1月19日(火)～24日(日)

会場：まちかど美術館(栃木県小山市)

主催：イラクの子どもたちの絵画展実行委員会

『イラクの子どもたちの絵画展』は、JIM-NETサポーターの佐藤真由美さんを中心とした市民グループによる絵画

展です。会場にはイラクの子どもたちの絵画だけでなく、地元の子どもの絵、JIM-NET参加団体のCADU-JP(劣化ウラン廃絶キャンペーン)の核のサイクルのパネルや劣化ウラン弾の貫通体の模型、そしてJIM-NETのホームページからの資料など、盛りだくさんの展示物が訪問者を迎えてくれます。

なお、会期中の1月23日に佐藤真紀JIM-NET事務局長のイラク報告会があり、イラクの子どもたちの話に多くの方が耳を傾けてくださいました。



佐藤真紀イラク報告会

## ■ サブリーンの軌跡

会期：2月3日(水)～7日(日)

会場：ギャラリーカフェ、アルル。(東京都町田市)

共催：ギャラリーカフェ アルル。、JIM-NET

昨年暮れのサブリーンのお別れ会以来の約40点に及ぶ作品をオーナーの萩原崇弘さんとギャラリープロデューサーの杉浦美代子さんのご協力で展示し、あらためて見てみると、やはりこみ上げてくるものがあります。最終日の2月7日には、

JIM-NETの歌うスタッフ大嶋愛のミニコンサートがありました。子どもたちの映像をバックにしての歌や、ピアノを弾きながらの『ハニーちゃんのお人形』の語りに、来場した皆さんは子どもたちのことを身近に感じてくださったことと思います。



大嶋愛ミニコンサート

## ■ Cholate for Peace ―イラクの少女の絵画展―

会期：2月10日(水)～14日(日)

会場：元麻布ギャラリー佐久平(長野県佐久市)

共催：元麻布ギャラリー佐久平、JIM-NET

訪れた日は、みぞれまじりの寒々しい天気でしたが、一歩ギャラリーに足を踏み入るとなんともいえない暖かさに包まれる、そんな展示でした。写真の構成や展示などを手伝ってくださった画家の森泉智哉さんが、サブリーンの絵に触発されて

4日で描き上げたという創作絵本『サブリーンの魔法のチョコレート』を見せていただいたのですが、読む人に愛の魔法をかけてくれるようなとても素晴らしい作品でした。ギャラリープロデューサーの大谷典子さんと森泉さんの熱い思いがこもった展示でした。



元麻布ギャラリーの展示

(事務局：熊谷 宏)

## 第9回JIM-NET会議

第9回目を迎え、初めてイラク国内での開催となったJIM-NET会議は、2月17日18日の両日、クルド地区の首都アルビル(p.7 地図参照)で無事に行なわれました。日本やイラクの他地

域からアルビルへの移動も問題なく、イラク全土から計12名の小児がんに関わる医者とイブラヒム先生(JIM-NET バスラ地区ローカルスタッフ、院内学級担当)、それに日本からは、鎌田代表と信州大学から2名の小児科医が参加されました。

今回の会議の主な成果としては、次の4点が挙げられます。

1. クルド側の医師たちも参加した。
2. 信州大学で研修中のリカ医師(モスル イブン・アシーラ病院)の中間報告があり、彼女の研究のイラクの小児がん治療に対する有用性が理解され、協力が得られた。
3. JIM-NETが今まで行ってきた治療初期死亡の予防の成果が確認でき、今後の方向性が認識できた。
4. 感染予防資材の紹介とその必要性の認識

以下、各項目についての報告です。



座長のサルマ医師(右)

### 1. クルド側からも参加

今回の会議は専門性を高めるため発表抄録を事前に集め、また会議の座長をバグダッド小児福祉教育病院のサルマ医師にお願いした。今回は、クルド地域からナナカリ病院およびドホクの医師も参加することができた。バスラ・バグダッド・クルドというイラクで分割案も出ていたそれぞれの地域から参加者がおり、イラク全地域からの小児がんに関わる医師たちを招くことができたのは大きな成果であった。

座長のサルマ医師も「イラクがひとつになれた」と喜びを表明した。

### 2. リカ医師の研究発表

現在、リカ医師が信州大学で研究テーマとして取り組んでいる、イラクの小児白血病患者の遺伝子解析についての説明が2日目になされた。イラクの小児がん患者の遺伝子解析は、いまだどの研究機関もなし得ていないことであり、研究はようやくスタディーのデザインと実際に可能かどうかの検証がなされた段階であり、現在のところは明らかな結果は出ていないが、リカ医師の研究に期待が高まる。



リカ医師

### 3. 治療初期死亡率の低下

3つの病院(バグダッド子供福祉教育病院、バグダッド子供中央教育病院、バスラ母子教育病院)からのデータを、3年前にJIM-NETで行った同様のデータと比較した。3年前の結果では、3病院で治療を行った小児急性リンパ性白血病患者179名のうち25名が治療後1か月以内に亡くなっていた。しかし2009年1年間のデータでは、181名の治療患者のうち8名のみであった。死亡率でいうと14.0%から4.4%まで低下していた。これは驚くべき進歩であり、何が原因で治療の改善が得られたか彼らと討議したところ

- 1) 抗生剤などが入手しやすくなった。
- 2) ステロイドの事前投与が導入された。
- 3) 感染予防・血小板輸血などの支持療法が改善された。

以上の3点が挙げられた。このうちでもっとも死亡率に改善したのは、2)であろうという意見であった。これはマレーシア会議の際、信州大学の小池教授が彼らに勧めた治療法であり、バグダッド福祉教育病院では1年半前からそれを実際に導入し、劇的な改善がみられたと話していた。

### 4. 感染予防資材の紹介

川添看護師により、ナナカリ病院に導入された医療資材の紹介がされ、どの病院もその資材提供を希望した。また導入前の看護師の研修、研修用ビデオの作製などの希望もあり、今後しばらくの活動の中心となりそうである。

(JIM-NET 医師：井下 俊 のレポートより 写真：奥村 浩毅)

~~~~~

アルビル、アクションリサーチ報告

「アルビル、ナナカリ病院で感染対策と院内学級を」ということで、昨年11月末より3か月間活動してきました。

■ 感染対策

11月21日、初めて病棟訪問をし、病棟の環境や看護師さんたちの感染対策の実施状況のアセスメント(評価)を行いました。

この日は、薔薇の芳香剤の空きボトルに入ったポピドンヨード消毒液や交換されない手袋、患者用ゴミ箱に捨てられる使用済みの針の処理に驚かされました。

そこで一番問題だと感じたのは、看護師さんたちが自分自身を守ることができていないことです。自分自身を守らずして、患者さんを感染症から守ることはできません。自己防御具、主にマスク・手袋・エプロンなどの不足も問題でしたし、針の捨て方にも問題がありました。

アルビル…イラク北部、クルド自治区の首都。



なぜ使用済みの針をゴミ箱に捨てる行為がそれほど危険なのでしょう。患者用ゴミ箱に血液がついた針が捨てられていて、それが清掃員が回収に来るまではそのままになっていると、その回収に来るまでの間に患者さんやその家族、他の看護師さんが誤って針刺しをしてしまうかもしれません。回収に来た清掃員が針刺しをしてしまうかもしれません。もし、その針についた血液が何かの感染症(HIVやC型肝炎)に侵されていたら、針刺しをしてしまったことで、それに感染する危険性があります。これらの状況を見て針捨てボックスの必要性を感じました。

また、自己防御の面からいうと、手洗い場へは屋上へ出ないと行けない、南京錠がついており緊急時に使用できないなど、手指の衛生に関しては、問題が山積みでした。それでは、アルコールジェルを置くべきですが、それは看護師さんの個人購入。しかもお医者さんも看護師さんのものを使うから節約しないと早くなくなります。だから使わないでとっておく…。なんという悪循環!

看護師さんの手は患者さんに触れたり、点滴や注射の準備をするため清潔である必要があります。優しい手であるべき看護師さんの手が何かの菌を媒介するようではいけないのです。手洗い場の使用が困難なのであれば、せめてアルコールジェルをいつでも使用可能な場所に設置しなければいけません。

そして、私の最大の悩みは点滴でした。準備から始まり、固定方法さらには薬剤投与まで、なんと、段ボール箱で点滴に必要な物品が持ち運ばれていました。段ボールは消毒もできず、またすべての患者さんのベッドを転々としていきますので、恐ろしいほどに菌を媒介していく力を持っています。

皮膚消毒は前述した通り 薔薇の芳香剤のボトルからポピドンヨードが噴き出し、それで消毒されます。そして、血管確保ができれば、針自体にキャップがされ、固定のため白い



針捨てボックス

布性のテープでぐるぐる巻きにされます。抵抗力の弱いこどもたちが化学療法や輸血を受けるにも関わらず、針の刺入部は観察できないし、固定しているテープの皮膚への刺激がとても強いようで、中にはかぶれているこどももいました。そこで、これはどうにかしなければと思い、刺入部が観察できるようなドレッシングフィルムや皮膚刺激の少ないテープ、アルコール綿を導入しようと決意しました。

一通りのアセスメントが終わると、欲しいものがたくさんできました。一部挙げると、針捨てボックス、アルコールジェル、段ボールの代わりのもの、

ドレッシングフィルム、テープ、アルコール綿などなど。

簡単に入手できたのは、アルコールジェルと段ボールの代わりのプラスチックのトレイ、それを拭くための除菌ウェットタオルです。アルコール綿は非常に質の悪いものが手に入りました。

しかし、その他の針捨てボックスやドレッシングフィルム、テープは、アルビルのいろんな医療資材のお店を巡っても見つかりません。またここで一番だと名声の高い個人病院

にもうかがってみましたが、ありません。困った末、日本の2社の医療資材メーカーさんに助けを求めました。ご親切にいろいろ教えていただき、日本へ一時帰国した際、サンプルとして医療資材をご提供いただきました。

■ 医療資材の使用状況

アルコール綿ですが、悪質なものより良いものをということで、イソプロパノールの消毒綿4枚組とエタノール消毒綿2枚組を導入しました。それまで使っていたのは、薄い紙のようなものであったため、止血に使用などできず、看護師さんたちと「イマイチ!」と言っていたのですが、今度は違います。4枚組のものは1枚を留置針のキャップ用、1枚を留置針の接続部、残り2枚を皮膚消毒に使用しています。本格的に導入するのはどちらかにしようと思い、看護師さんたちに尋ねたところ、4枚のものが良いとのことでしたので、こちらの使用を継続していただきます。

ドレッシングフィルムとライン固定用メッシュのテープについては素晴らしい使用状況です。点滴の針の刺入部が観察できています! 大きいサイズと小さいサイズをいただきましたので、大きいのを大人の患者さんに、小さいのをこどもたちに使ってもらいました。手技を教えたのは数回です。その後は看護師さんたちが自ら考えていけば良いと思っていましたので、観察だけさせてもらいましたが、きれいに固定できるようになっています。

アルビルで入手できる除菌ウェットタオルに代わり日本製を。なぜかというところらのものは清拭時に泡立ち、プラスチックトレイや金属の腐食作用がありそうだからです。看護師さんたちは泡立つのが嫌だったようで、泡立たないのがうれしかったのか、目につくところはすべて清拭してくれています。例えば、詰め所のドアノブ・テーブル・処置台・薬品運搬用のかご・トレイまで! 詰め所周辺はきれいになりつつあります。

最後に針捨てボックス。箱がきれいすぎて、使用まではなかなか長い道のりでしたが、現在では使用方法がわかってきたようで、点滴・採血時にトレイと一緒に持っていってくれています。

ナナカリ病院の小児・成人女性病棟の看護師さんたちはスキルも知識もあったため、私の拙い説明でもすぐに理解して実践に移すことができました。

リーダーシップをとれる看護師さん、とても器用で自分の意見を言える看護師さん、大卒でまだまだ新たな知識を身につけていける新人看護師さん、いつも明るくて技術もしっかり身につけている看護師さん4人が働いています。彼女たちの頑張りのおかげで感染対策は進んでいます。継続していけば、皆さん感染対策のエキスパートになれると信じています。

■ 院内学級

ナナカリ病院には小児部屋がありますが、プレイルームやこどもが気分転換を図れるような設備がまったくありません。しかし、こどもたちは皆、化学療法や輸血、



バルーンの犬と患者



クリスマスイベントで記念撮影

検査のため日々心理的苦痛を感じています。そこで、苦痛の緩和を図るため、日常的にバルーンアートや折り紙を行い、またクリスマスパーティーや家庭訪問などのイベントを開催しました。

さて、ここでイベントの紹介ですが、ちょうどクリスマス！ということで、現地協力者のシーランさんがサンタクロースに扮してプレゼントを配りました。休日だったので、院内に残っているこどもたちも少なく、スタッフそれぞ

れがこどもの元で遊ぶことができました。清掃員のお兄さんたちや看護師さんも風船を膨らませてくれたり、一緒に遊んでくれたりと、皆で笑顔になれるイベントでした。ひとりのお父さんが「息子より僕の方が嬉しいよ!」と何度も言っていたのが印象的でした。入院しているこどもを対象にイベントを企画しても、入院患者数が安定しないため参加者数も病状もわからないなどありますが、今回のクリスマスパーティーでは、こどもたちやその家族の心理的負担の軽減という面では効果が得られたと思います。

次に家庭訪問ですが、急性リンパ性白血病闘病中の9か月の女の子のおうちと非ホジキンリンパ腫の7歳の男の子のおうちに伺いました。両家ともご家族全員で温かく迎えてくださいました。院内では聞きにくい家庭の問題や、病院についてなど聞くことができ、とても良い機会になりました。しかし、家庭訪問をするには、こどもたちが病院にいる間に信頼関係を築いておくことが必須です。そのためにも日常的に活動を行うことが大切だと思います。

最後になりましたが、皆さんに助けていただいて、今回の活動は成り立っていました。毎日癒してくれたのは病院で会うこどもたち、クルド語を教えてくれたり、かみ合わない会話の相手になってくれたのは看護師さんたち、また清掃員の皆さんは欠かさず挨拶をしてくれました。たくさんの医療資材を提供してくださった日本の企業の方や、アドバイスをくれた専門家の方々。皆さんのおかげで安心して活動することができました。

人と人とのつながりの大切さを感じられた貴重な3か月間でした。

(JIM-NET看護師：川添圭子)



JIM-NETの医薬品支援

まもなく09年度が終わろうとしています。年間の医薬品支援の状況を現在まとめております。12月、1月は、データ未提出のところがありますが既に3200万円を越えています。これらの支援は、製薬会社からいただいた医薬品や、JIM-NET参加団体、協力団体のものも含む総額です。今年の8月からアルビルでの医薬品支援が始まっていますが、その一方でモスルの治安が非常に悪く、支援を見合わせざるを得ない状況です。

モスルに近いアルビルへの支援を充実させ、患者がアルビルに来られるような環境を整備していく必要もあるかもしれません。

■ 支援実績 (単位=円)	09年 4月	5月	6月	7月	8月
バグダッド 子ども福祉	1,451,055	2,020,098	1,038,540	1,049,215	1,554,322
バグダッド セントラル	229,783	188,136	465,649	343,692	536,037
モスル イブン・アシール	265,962	500,538	1,014,730	357,249	0
バスラ 産科小児科	781,751	762,964	959,620	953,268	921,557
アルビル ナナカリ					3,376,337
合計	2,728,551	3,471,736	3,478,538	2,703,424	6,388,254

9月	10月	11月	12月	10年1月	合計
740,713	926,516	641,092	集計中	集計中	9,421,552
449,246	700,430	352,015	集計中	集計中	3,264,987
523,669	965,789	497,682	985,286	集計中	5,110,904
897,680	91,879	2,884,986	925,513	906,318	10,085,536
237,350	0	387,867	0	499,480	4,501,034
2,848,658	2,684,614	4,763,641	1,910,799	1,405,798	32,384,014

JIM-NET参加団体のご紹介 No.1「サダコ」・虹基金

過去と未来への架け橋、「サダコ」・虹基金

大人たちのはじめた戦争で、将来の夢も希望も命さえも絶たれた子どもたち。

そんな子どもたちの夢と希望を未来につなぐため、一昨年6月亡くなられた大倉記代さんが、著書『思い出のサダコ』(2005年/よも出版刊 夜川けんたろう画)の出版を機に立ち上げたのが「サダコ」・虹基金です。

基金名の「虹」には、広島平和記念公園にある原爆の子の像サダコちゃん

と白血病や癌で苦しむイラクの子どもたちの架け橋であり、平和を願う人と支援を待っている人を結ぶ架け橋にしたいという思いがこめられています。

大倉記代さんは、サダコ(佐々木禎子)ちゃんと同じ病室で過ごした人です。核廃絶、平和の象徴として世界に知られている「サダコ・ストーリー」。奇跡を信じて、最期のその時まで生きる希望を持ち続け、死の間際まで鶴を折っていた少女の物語はひろく世界に知られています。

そんなサダコちゃんの横顔を間近でみていた大倉さんは、イラク戦争で劣化ウラン弾の放射能の影響により苦しむ子どもたち、白血病や癌で苦しむちいさな命に同じ悲劇を重ね



合わせて胸を痛めたことでしょう。繰り返してはならないはずの悲劇が目の前で繰り返され、大人になることなく死んでいったサダコちゃんのような無垢な命を救いたいとの願いは、JIM-NETの活動を支援することで実現されています。大倉さん亡き今も「サダコ」・虹基金は活動しています。従来通り寄付金をJIM-NETに送っています。JIM-NETはイラクの子どもたちのためにでき得る限りの医療と生きる希望を与えることで確実に過去の過ちを未来への希望に換えています。「サダコ」・虹基金はこれからもJIM-NETを支援し続けていきます。

「サダコ」・虹基金 代表 夜川けんたろう(絵も)

~~~~~

## 新刊のご案内



前号でお知らせした『ハウラの赤い花(佐藤真紀 文・写真/ハウラ・ジャマル 絵)』と『ハニーちゃんのお人形(加藤ユカリ 文/榎野ヒカリ 絵)』が、過日刊行されました。どちらも「絵本」の体裁をとっています。

新日本出版  
売価1400円 送料180円  
すが、その内容は童話やおとぎ話ではありません。それぞれハウラ、ハニーという少女の、言ってみればドキュメンタリーです。

ハウラは、かつて日本の陸上自衛隊が駐屯したイラク南部の町サマーワの貧しい家の少女。2005年に白血病を患っていることがわかり、約300km離れたイラク南部の都市バスラにある、JIM-NETが支援している産科小児科病院に通って治療を受けます。その間ハウラは、院内学級でたくさんの絵を描きます。そのうちの1枚で本の題名にもなっている赤い花の絵はJIM-NETのバレンタインデーにかけて行なわれる募金キャンペーン「限りなき義理の愛大作戦2009」のメインテーマとして多くの人の支持を得ました。人々が愛を伝えるバレンタインデーとはそもそもどういう日なのか、ハウラをはじめとしたイラクの子ども達はどういう状況の中で生きているのか、JIM-NETのチョコ募金は何を目指しているのか、そういったことを解き明かしながら、イラクの子

もたちの愛と夢を皆さんにお伝えするのが『ハウラの赤い花』です。



もう一人ハニーは、ヨルダンの首都アンマンでひっそりと隠れるように暮らす、イラクからの避難民の少女です。ある日、がんを発症していることがわかり手術を受けますが、すべての腫瘍を取り除くことができず、症状は次第に悪化していき、助かる見込みがほとんどないという診断が下されます。そんなハニーに手を差し伸べたのが、JIM-NET参加団体のスマイルこどもクリニックでした。スマイルこどもクリニックのユカリ先生の、どんな状況にあっても決して希望を捨てない姿勢は、支援の厳しさ、難しさを超え、人の心はきっと繋がるということを感じさせてくれる一冊です。なお、この本の絵を描いているJIM-NETスタッフの榎野ヒカリは、ユカリ先生の実妹です。

ご購入は、事務局(☎ 03-6228-0746)まで。

JIM-NET便り 2009年秋号

発行：日本イラク医療支援ネットワーク

発行日：2010年3月10日

〒171-0033

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

info-jim@jim-net.net ☎ 03-6228-0746